

全国の数多くの大学の入学試験で、古典の文学史に関する知識が問われる。合格に向けて一点でも多くの点数を獲得するために、その対策を講じることは不可欠である。

ところが、どんな問題でも必ず正解しようとする、そのためには分厚い文学史の教科書を丸ごと暗記しなければならなくなると、受験科目が一つ増えてしまうくらいの大きな負担になる。だけど所詮はたかが文学史。どんなに苦勞をしても大量得点には決してつながらないのだから、あんまり頑張りすぎない方がいい。めったに出題されない難しい問題なんかでさえなくてもいいのだと割り切って、本当に大切な最小限のことだけを厳選して学習しておくのが賢いやり方だ。

そこで『でるとこ古典文学史』！過去の入試問題を徹底的に調査し、試験によくでるところだけを効率よく学習するための必須アイテムとして、本書は作られた。できるだけ学習の負担は小さくしたいけれど、かといって他の受験生にできる問題もできないのではせつなすぎる。だから、古代から近世までの文学史を、よくでるところだけ70の項目に絞り込んだ。これだけは覚悟を決めて覚えよう。これでほとんどの問題が解ける。最小限なのだから、これだけでは解けない問題が出題されることだってあるけれど、でも、そんな問題は解けなくてもいいのだ。

覚えた知識を実戦的に確認するために、入試の過去問から選んだ練習問題もたっぷり用意した。ぜひ本書でバランスのよい古典文学史の学習をしてほしい。

この本の使い方

① まず右ページの**重要事項**をしっかりと暗記しましょう。1～70の番号がついた囲みの中の項目が絶対に覚える最重要事項です。さらに、各項目の左にある**チイ**まで覚えると、正解できる問題がいちだんと増えます。

② 重要事項を覚えたら、**練習問題**にチャレンジしてみましょう。すべて大学入試で実際に出題された問題を掲載してあります。**＊**マークのついた問題は、右ページの最重要事項を覚えれば解ける基本的な問題です。**チイ**まで覚えると、**＊**マークのついていない問題も解けるようになります。

③ 第1章から第3章の初めに各時代の重要な作品と人物を**年表**にして掲げました。作品や人物の前後関係や同時代性を一括してイメージできるように、この年表は何度も何度も見直してください。

④ 第1章から第3章まで終わったら、第4章の**総合問題**に取り組んでみましょう。設問文や選択肢に知らない作品名や人名が出てくる場合もありますが、そういう問題も、本書で覚えた知識を駆使すれば、正解を導くことができます。落ち着いて考えてみてください。

⑤ 「付録」として、**入試で問われる有名な和歌・俳句と有名作品の冒頭**を挙げて、その過去問による練習問題も掲載しました。高校の教室で習ったことがあるものもかなりあるはずです。余力があったら取り組んでみるといいでしょう。

● もくじ ●

はじめに	2
この本の使い方	3

第1章

古代	5
----	---

第2章

中世	39
----	----

第3章

近世	61
----	----

第4章

総合	81
----	----

付録

I であるところ有名和歌	98
II であるところ有名俳句	112
III であるところ有名作品の冒頭	116

索引	122
----	-----

40 □□ 『宇治拾遺物語』^{うじしゆいものがたり} は鎌倉時代初期に成立した説話集^{せつわ}。



後代に最も流布した説話集。仏教説話と世俗説話（↓30）をともに収める。

41 □□ 鎌倉時代の仏教説話集は鴨長明の『発心集』^{はつしんしゅう}と無住の『沙石集』^{しゃせきしゅう}。



『発心集』は鎌倉時代初期の成立。『沙石集』は鎌倉時代後期の成立。鎌倉時代の仏教説話集としては他に『閑居友』^{かんきゆうとも}『撰集抄』^{せんしゅうしょう}もある。

42 □□ 鎌倉時代の世俗説話集は『十訓抄』^{じゅうくんしょう}と橘成季の『古今著聞集』^{ここんしやくもんじゅう}。



どちらも鎌倉時代中期の成立。鎌倉時代の世俗説話集としては他に『今物語』^{いまものがたり}もある。

※問145 『宇治拾遺物語』は、日本文学史上の分類からしてどの分野に入る作品なのか。①

⑤から一つ選べ。

- ① 説話集 ② 歴史物語集 ③ 戦記物語集 ④ 随筆集 ⑤ 和歌集

□ ①
(高橋経済大)